【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
1　前年度 評価結果の概要	・教職員がチーム一丸となって教育活動に取り組んだことで、ほとんどの項目でA評価となった。 ・学力向上については、今後も児童が主体的に活動に取り組むことができるように、個に応じた指導等も充実させていく必要がある。また、児童人一人が安心して学校生活を送れるように、今後も心の教育や特別支援教育等の取組を充実させていく必要がある。児童人一人の出番や役割を与え、できていることを称賛、承認することで、児童の自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。 ・教職員の働き方改革への意識が少しずつ向上してきている。今後も教職員が心身ともに健康で教育活動に取り組むことができるように、ICT活用や会議のスリム化を行い、教職員の勤務時間の適正化に努めていきたい。
2　学校教育目標	ひこばえの心をもち、強く・かしこく・美しく生きる子どもの育成を図る
3　本年度の重点目標	①確かな学力の向上、及び主体的・対話的に学び自信をもって表現する子どもの育成を図る。 ②自己肯定感や自己有用感をもち、人を思いやる豊かな心の育成、及び、ふるさと大浦を誇りに思う心の育成を図る。 ③粘り強く何事にも挑戦する児童の育成、及び、自他ともに健康と命を大切にする態度の育成を図る。 ④ワークライフバランスを保ち、働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実を図る。

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的・対話的に学び自信をもって表現する子どもの育成	○「文章を書く時に相手や目的に合わせて伝えたいことを分かりやすく書いている」「話し合いでは、自分の考えを伝えたり友達と比べたりして考えることができている」と回答した児童80%以上。	・「授業づくり1・2・3」を踏まえ実践していく。 ・話す、書く目的や相手意識をはっきりさせた上で必要な条件や具体的な書き方・進め方を示す。 ・家庭学習の定着や自主学習の奨励、語彙力を高める取り組みを積極的に行う。	B	・アンケート結果によると「書く活動」の項目は、全体では90.9%と良かったが、学年によりばらつきが見られる。学年の実態に応じた取組を継続していく。 ・「話し合い活動」の項目は、「できている」と回答した児童が81%と多かった。今後も児童が主体的に活動に取り組むことができるように、個に応じた指導等も充実させていく。	A	・アンケート結果によると「書く活動」の項目は、全体で92.5%であり、学年によるばらつきはなくなった。児童の実態に応じた手立てをとり、継続した指導の成果だと考える。 ・「話し合い活動」の項目は「できている」と回答した児童が82.5%であった。適宜話し合い活動を取り入れていることから、集会や学習発表会でも自信をもって発表している姿が多く見られるようになった。	A	・学力向上について児童が肯定的な回答をしているのは、児童のがんばりはもちろんだが、先生方の継続的な指導のおかげだと思う。 ・学習発表会や6年生を送る会での様子を見ると、児童がはきはきとした声で発表していてよかった。	確かな学力PJ
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童90%以上。	・人権集会やぼかぼかの木、自他の生命を大切にする道徳の授業に取り組む。 ・QUアンケートに関する校内研修を実施する。 ・学級活動で構成的グループエンカウンターの授業に取り組む。	B	・「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童は89．4%で、学年でばらつきがみられる。 ・QU研修をもとに、各学級の実態に応じて構成的グループエンカウンターに取り組むことができている。	A	・「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童は92．6%であった。日々のいいところ見つけに加え、11月の「キラキラの森」の取り組みにより、自己肯定感や自己有用感が高まったと考える。 ・2回のQU研修により、各学級の実態を把握し、それに応じて構成的グループエンカウンターに取り組むことができたので来年度も継続して行いたい。	A	・児童が「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」と自覚しているところがよいと思う。今後も、児童が自己肯定感や自己有用感を高めていけるような活動を継続していってほしい。	豊かな心PJ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「まわりの人たちや、困っている人に優しくしている」の項目で肯定的な回答をした児童90%以上。	・心のアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めると同時に事案発生の時は迅速な対応を行う。 ・担任と児童一人一人と話す「教育相談週間」を設定し、児童の状況の把握と信頼関係の構築を行う。 ・毎週木曜日の子ども支援連絡会を通し、教師間の情報共有かつ指導の統一を図る。	A	・「まわりの人たちや、困っている人に優しくしている」の項目で肯定的な回答をした児童は96．2%だった。 ・心のアンケートや教育相談、子ども支援連絡会での情報交換を通して、児童の些細な変化にも対応している。	A	・「まわりの人たちや、困っている人に優しくしている」の項目で肯定的な回答をした児童は98．4%であった。普段のいいところ見つけやたてわり活動などの取り組みにより学年関係なく優しく接する児童が増えたと考えられる。 ・心のアンケートや教育相談、子ども支援連絡会での情報交換を通して、児童の些細な変化にも対応できているので、来年度も引き続き取り組みたい。	A	・いじめはあってはいけないが、早期発見・早期対応が功を奏しているところがすばらしいと思う。今後も児童の様子やサインを見逃さないように、アンテナを高くして見守ってほしい。 ・自分の悩みをいろいろな手段で誰かに伝えることができていてよいと思う。	豊かな心PJ
	●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・日頃から児童の励みになるように承認・称賛を行い、児童の自己肯定感を高める。 ・道徳の授業で夢や目標の持つことの大切さを知り、児童一人一人が夢や目標を持てるような手立てや声かけを行う。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90．9%だった。 ・係や日直などの役割を与え、褒めたり、認めたりできる機会を継続していく。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は96．2%だった。今後も継続して手立てや声かけを行っていく。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童97．5%だった。 ・係や日直などの役割を与え、褒めたり、認めたりできる機会を継続して行うことができた。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は96．9%であった。	A	・先生方の児童の見守りがすばらしいと思う。今後も、児童のがんばりやよいところをその場ですぐにほめるようにしてほしい。 ・児童のよいところをたくさん見つけて、ほめていってほしい。	豊かな心PJ
	○基本的な生活習慣の定着	○「あいさつ上手、片づけ上手、すごし方上手、お話上手」の項目で「よくできる」と答える児童90%以上	・毎月、クラスで生活目標のふりかえりを行い、児童の意識の向上を図る。 ・全校朝会で生活の話はふりかえりを行い今後も続けるよう声をかけたり、日々の生活の中で良い行いをしている児童を見つけて褒めたりする。	B	・「毎月の生活目標を守って生活している」の項目で肯定的な回答をした児童は92．4%だったが、「大きな声であいさつや返事をしている」の項目では85．6%、「正しい廊下歩行をしている」の項目では83．9%と低かったので、今後も全職員で声かけを行っていく。	B	・「毎月の生活目標を守って生活している」の項目で肯定的な回答をした児童は94．3%だったが「正しい廊下歩行をしている」の項目では80．4%と低かった。正しい過ごし方ができるよう、全職員で声掛けややり直しなど徹底していきたい。	B	・あいさつはとても大切なことであると思う。児童、先生方、地域の方々みんなで大きな声であいさつをしていってほしい。 ・安全な学校生活を送るために、正しい廊下歩行を身に付けてほしい。	豊かな心PJ
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○ひこばえがんばりカードで就寝時間を守ることができている児童85%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童80%以上	・ひこばえがんばりカードに各担任が目を通し、適宜指導する。 ・栄養教諭と連携し、食育指導を各学年が一回以上実施。 ・栄養教諭の巡回指導を、複数回行い、食に関する興味関心を高める。	B	・就寝時間については、77.7%と目標に到達することができなかった。各担任がひこばえがんばりカードに目を通し、適宜指導する必要がある。また、低学年と中学年の寝る時間を9時半に設定するなど、児童の実態に応じた就寝時間を設定するように呼びかける。 ・栄養教諭と連携した授業については、3学年が実施しているので、今後全学年が実施できるようにする。 ・栄養教諭の巡回指導は、複数回行ってもらったことで、児童の興味関心も高まっている。今後も、継続的に実施。「健康に良い食事をしている」と回答した児童は、86%と高かった。	B	・就寝時間については、78.0%と目標に到達することができなかった。今後も、各学級で適宜指導していく必要がある。 ・栄養教諭と連携した授業については、どの学年も実施することができた。 ・健康に良い食事をしていると回答した児童は、96.0%と前回よりも伸びが見られた。栄養教諭による巡回指導もあり、児童の興味関心が高まっていると思われる。今後も、望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成についてはしっかりと行っていきたい。	B	・よい睡眠が児童の心と体をつくると思う。今後も、学校と家庭でしっかり連携して取り組んでいってほしい。 ・健康によい食事をしていると児童が意識していることがとてもよいと思う。	健やかな体PJ
	○運動に親しむ児童の育成	○「授業や休み時間など学校生活において体を動かすことが好きだ」と回答する児童85%以上	・委員会主導によるスポーツフェスタの実施。 ・サガンキッズへの積極的な参加。 ・外遊びの奨励	B	・体を動かすことが好きな児童は80.3%と目標を達成することができなかった。しかし、去年より中間報告よりは良い結果であるので、今後はスポーツフェスタやサガンキッズの積極的な参加を促すようにしたい。1月あたりに第二回のスポーツフェスタを企画予定である。 ・外遊びの奨励も引き続き担任の先生を中心に声掛けするようにする。また、休み時間だけでなく、授業中でも体育の教科がもつ運動の楽しさに触れることができるように、お知らせをしたい。	A	・体を動かすことが好きな児童は、87.6%と目標を達成することができた。 ・今年は、年2回スポーツフェスタを実施することができた。 ・サガンキッズへの積極的な参加を促すことができず、担任の先生頼りになってしまっていたので、学校をあげて参加を促すように来年できればよいと思う。 ・外遊びの奨励については、低学年から中学年を中心に外に出て遊んでいたように思う。また、担任の先生方もよく声をかけてくださったおかげでたくさんの児童が休み時間に運動場で遊んでいた。	A	・休み時間、学校から児童の元気な声が聞こえてきてとてもよいと思う。 ・社会体育をしていない児童も学校でしっかり体を動かせるようにしてほしい。 ・少しでも運動が好きになることが、生涯体育につながっていくと思う。	健やかな体PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・自分の勤務状況を確実に把握するために出勤退勤カードの管理を確実に行うとともに、毎日予定ボードに必ず退勤予定時刻を明記し、実行する。 ・資料の事前配布や職員連絡掲示板やICTの活用により会議をスリム化し、会議の回数や時間を減らす。 ・毎週金曜日を定時退勤日として設定し、確実に守るようにする。	B	・ひと月の超過勤務時間は、職員平均45時間を下回っているが、全体の1/3ほどの職員が45時間を超えている状況である。今後、職員の勤務時間の適正化に向けて、学校全体での業務改善を推進していくと共に、職員への働き方に対する意識改革を促していく。 ・職員の定時退勤日への意識を高め、確実に実施するようにする。	B	・ひと月の超過勤務時間が職員平均30時間になり、45時間を超えている職員はいなくなっている。仕事の優先順位や軽重を考えるなど、教職員の働き方に関する意識が高まってきた。 ・定時退勤日については、定時とまでとはいかないが、通常よりは早く退勤する職員が増えてきた。	B	・定時といかなくても、ICT等を有効活用することで、先生方が早く退勤できるようにしてほしい。 ・先生方が持ち帰りの仕事があってないか心配である。	校長・教頭
	○学校組織力の向上 ・ブロック制による学年経営 ・プロジェクト制による校務運営 ・各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	○「プロジェクトやブロック制を意識した業務ができた」と答える教員90%以上 ○「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員90%以上	・ブロック主任、各部員は年間を通じて日常的に情報の共有を行い、ブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるように進捗状況を把握する。 ・プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や工夫・改善を行う。 ・各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。	A	・「プロジェクトやプロジェクト制を意識した業務ができた」が92.3%。「担当分野の内容改善を進んで行った」が100%の肯定的な回答を得た。今後も、ブロック主任やプロジェクトリーダーを中心に職員間の協力体制を構築しながら組織的に業務を進めていくと共に、業務内容の工夫改善を推進していく。	A	・「プロジェクトやプロジェクト制を意識した業務ができた」が92.3%。「担当分野の内容改善を進んで行った」が100%の肯定的な回答を得た。今後も、ブロック主任やプロジェクトリーダーを中心に業務内容の工夫改善を推進し、教職員が自分のよさを発揮しながらチーム一丸となって職務を行うことができる環境を作っていく。	A	・先生方が学年グループ間やプロジェクトの協力体制が充分にできているという意識で一致していることがよいと思う。実際に先生方の連携が機能していてすばらしいと思う。	校長・教頭
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性や意識が向上した」と答える職員90%以上。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・子ども支援連絡会等で情報共有すると同時にケース会議を開催して個別の支援の対応を図る。	A	・夏季休業中に研修会を行ったり、専門家から個別にアドバイスをいただいたりすることで、「特別支援教育に関しての知識を深め実践につなげようとした」と答えた職員が100%となっている。今後も、ことも支援会議やケース会議などを通して、個別の支援をしていきたい。	A	・「特別支援教育に関しての知識を深め実践につなげようとした」と答えた職員は100%であった。引き続き、毎週「子ども支援連絡会」を行い、全職員で児童の実態を把握した。対応の仕方についても共通理解をするよう務め、それぞれの立場で個別の支援をすることができた。	A	・児童の様々な実態に応じて対応していくことは大変であると思うが、児童一人一人を「見つめ、見取り、見守る」ことを大切にしてってほしい。 ・今後も、特別支援教育の大切さを実感できるように、取組を充実させていってほしい。	特別支援教育コーディネーター

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	
○	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自成果指標・任意）	・		・		・		・	

●…県共通　○…学校独自　◎…志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・今年度の目標をしっかりと意識ながら、全職員一丸となって教育活動に取り組み成果を上げることができた。中間評価を行う際に進捗状況をしっかりとふり返り、その後の対策を立てたことで、最終評価では3つの項目でB評価からA評価となった。 ・学力向上については、これまでの取組が確実に児童の力となっている。また、今年度は自己肯定感や自己有用感を高めるような取組、児童が運動に親しむことができるような取組を充実させ成果が出たことがとてもよかった。 ・教職員の働き方に対する意識が高まってきている。今後も、業務内容の工夫改善を推進し、教職員がチーム一丸となって職務を行うことができるような環境づくりを行っていきたい。